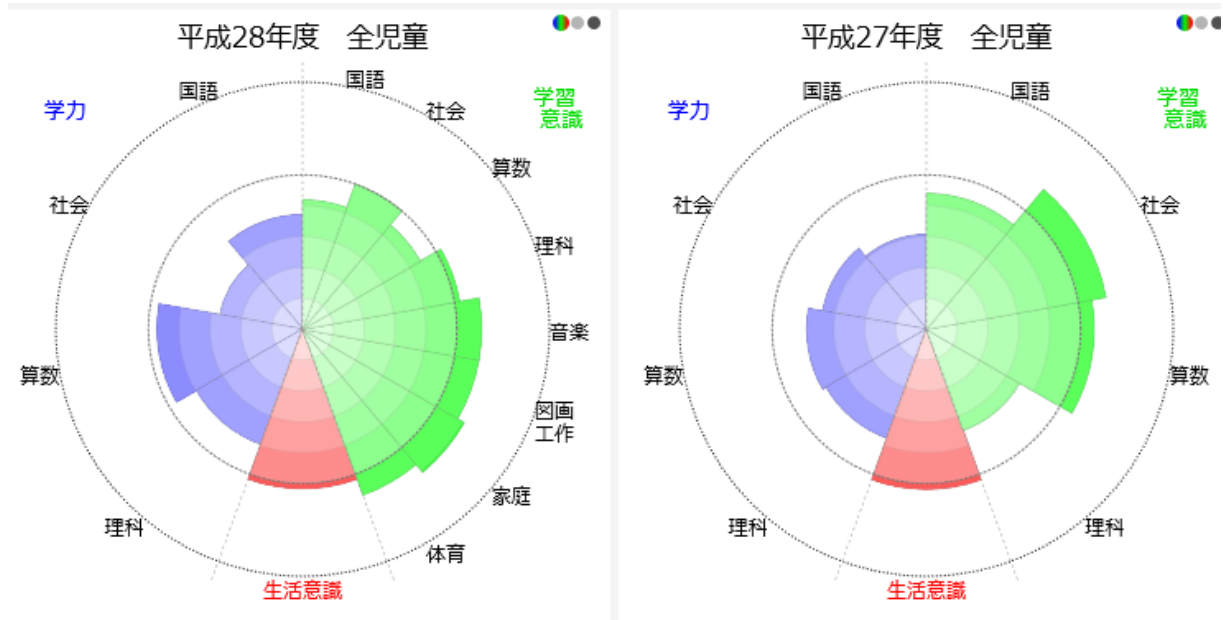


平成28年度「横浜市学力・学習状況調査」の結果と分析

(1) 学力の概要と要因の分析



全体的に横浜市の平均より下回っているが、前年度に比べ算数、国語、理科において向上が見られる。学習意識・生活意識は全体として良い状態が維持されている。

学力層ではC・D層の割合がどの学年でも高いが、きめ細かな支援の効果でD層の子ども達の学習への意欲は高い。

平楽中学校区ブロックで取り組んでいる「自尊感情」「学ぶ意欲」「規範意識」「コミュニケーション能力」に関するアンケート項目の回答はいずれも年々向上している様子が見られる。

(2) 各学年の状況

活用に関する問題の正答率が高く、基礎に関する問題の正答率が低い。子ども達の伝え合いや、言語活動の充実など学校として取り組んできた成果が出ている一方で、基礎に関する内容に関しては、国語で身につける力の系統を意識した授業づくりを継続していくことが必要であるといえる。

算数では活用に関する問題で課題がみられる学年が多い。基礎的な計算などの力は個別の指導やTT等で少しずつ向上している。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学力に関しては、学年による差はあるが、少しずつ向上している様子が見られる。学習意識、生活意識に学年による大きな差がなくなったことは、学校の取り組みが各学年の子ども達に広く浸透している効果ととらえることができる。学校全体が落ち着いて学習を進められる環境になっている。

現4年生はじめ、どの学年も、特に算数の学習において、学校として体制を整え支援をした効果が見えた。